

北区 女性だより

# Azalea

アゼイリア



アフリカの大地と人々に魅せられて  
徳永 瑞子さん(赤羽台)  
婦人問題に関する意識及び実態調査まとまる  
北区婦人問題懇話会～全委員が起草者に  
ご応募ありがとうございました～誌名が決まりました  
いらっしゃいませんか「'91北区婦人週間のつどい」  
聞き書き自分史 黒田 恒子さん(浮間)  
北区消費生活センター



## アフリカの大地と人々に魅せられて

読売「女性ヒューマン・ドキュメンタリー」大賞に輝いた『ブサ マカシ』の作者

徳永 瑞子さん (赤羽台1丁目)

ザイールの画家ムンバシが描いた徳永さんの肖像の前で



瞳を輝かせ時には大きなゼスチャーを交えてアフリカについて語る徳永さん。人間が生きて行くということはどういうことなのか、生命への畏敬の念を体験的に教えてくれたアフリカの人々への愛情と尊敬をこめて、話をつきない。

徳永さんが初めてアフリカのザイール共和国(当時はコンゴ共和国)へ出発したのは1971年、「好奇心と若さだけ」で行ったアフリカで、大きなカルチャーショックを受けながらザイール鉱山の診療所の助産婦として1年間勤務。「今度は準備してから行こう」と、ベルギーへ渡り王立執業医学校を卒業し、4年後の1976年、再びザイールへ。

その時の体験をもとに書いた作品『ブサ マカシ(強く、力みなさい)』が、第11回読売

看護婦、助産婦。1971年アフリカザイール鉱山のムンバシ診療所勤務。その後、愛育病院勤務を経て1976年ベルギーで熱帯医学を学び再びザイールへ。助産婦としてマウヤ村で、キンサシャで主に栄養失調児のために働く。1983年に帰国し聖母病院勤務。その間、エチオピア干ばつ被災民救済キャンプにボランティアとして参加。現在、アフリカへの医療活動を再開するため準備中。



新聞「女性ヒューマン・ドキュメンタリー」

の大賞に輝いた。『ブサ マカシ』は、8月に新聞紙上に7回にわたって掲載され、現在テレビドラマ化が進行中だ。このドラマの出演者は、主役のミズゴ役以外のほとんどがアフリカ人とヨーロッパ系。出産や診療所活動などの知識も必要というわけで、徳永さんは秋から年末にかけて、テレビスタッフに同行し中央アフリカでの撮影現場で指導にあたる。

「さわやかな読後感」と選評され、応募総編の中から選ばれた『ブサ マカシ』は、27歳の助産婦がたったひとりで、設備の整っていないザイール奥地の診療所の助産婦として力いっぱい活躍する感動あふれる作品。この作品に描かれた徳永さんの活動だけでも十分に評価されるものだが、徳永さんのすごさはこれだけに止まらない。

1984年、テレビ局のチャリティ番組のエチオピア干ばつ被災民取材に参加。その救

援キャンプ作りのメンバーのひとりとしてキャンプ運営から運営を軌道に乗せるまでの活動を行う。現在の日本からは考えられないほどの資源不足(キャンプ運営のための水、燃料・木材・セメントなど)と思うにまかせない現地政府の官僚主義に悩みながら、一方で援助を求めて集まった被災民たちの誇りを失わない態度に素直に感動。

「私がアフリカへ行くのは、誰れのためでもない自分のために行くんですよ。アフリカには日本にはない生命の躍動があるんです。あの方たちには教えられることがたくさんある」

いまま徳永さんの目は、アフリカに向いている。一夫多妻という民俗的カルチャーを愛せない限り撲滅できないといわれるエイズ。アフリカに吹き荒れるエイズ旋風に一矢を報いたい——その思いが強い。



「90北区婦人週間のつどい」をはじめ、3回にわたって開催した「リレー講座」。一堂に集い、共通の時間を分かちあつた方々から、多くの感想が寄せられました。こうした貴重なご意見を、今後の事業に反映させていきたいと考えています。

あなたのご意見も、ぜひお寄せください。

## ●北区女性だよりに期待します

「北区女性だより」を田端出張所の「ご自由にとろろ」という棚の多くの情報誌の中から見つけ、北区としては初めての女性向けの小冊子（私の記憶では）に出会い、とても嬉しく感じました。

女性の地位向上と、女性をとりまくさまざまな問題をとり上げていただけるとは、それも単に個人のグループではなく、行政の側

から取り組んでいただけるとは、女性としてとても有難く思う次第です。

今後、誌面で多岐にわたる情報の提供、さまざまな問題提起等をしていただけることを今から大いに期待しています。

（田端 堀井泰江さん）

北区女性だよりの創刊号を拝見しました。

北区婦人問題懇話会もスタートされたそうで、とりたてて婦人問題というのではなく、男女とも生きいきとくらせる街づくりを望みます。

女性の能力や役割についての固定観念を見直し、もっと柔軟性をもった考え方が欲しいと思います。

（桐ヶ丘 藤田光子さん）

## ●婦人週間「講演と音楽のつどい」に寄せて

石井ふく子さんの講演と、すずきたけおさんの歌とギター、芳賀正和さんのフルート演奏は大変楽しく聴きました。

当日は講演の内容も歌も男性が出席しても一向に差しかええないものなにとんどもが女性で、男性は皆無の状態でした。

会が終わってから「主人も一緒に来られたらよかったのに」と思ったのは私一人だったでしょうか。

婦人問題には男性の理解と協力が必要ですから、このような催物には男性が「参加してみようかな」と思うような呼びかけ方が必要ではないかと思えます。

（中十条 榎本睦子さん）

## ●婦人問題リレー講座

### 第一回「働くこと、生きること 楽しむこと」を聞いて

8月6日、中島通子先生の講座を聞いて、女性の平均寿命を82才とすると、私はあと20年をどのように生きようかと考えさせられました。

私の家の場合も、私がちよつと外出しようとすると、「また出かけるのか」とか「何時に帰ってくるのか」ところるさくいわれ、お話の中でいわれた「粗大ゴミ」とか「ぬれ落葉」といういい方もわかるような気がしました。

とにかく男性（主人）の考え方を少し変えていただきたい。

そのためには、このような講座はぜひとも大正生まれの男性（主人）にも聞いて頂きたいと思いました。

（王子本町 T・H子さん）

## ●婦人問題リレー講座

### 第三回「家庭科だから、男女共修」に共感

汐見先生のお話は、強く共感を覚え、大変良かった。主婦願望がまだまだ強いと言われている若い女の子たちや、子育てで第一線の母親たちにも聞いてもらいたい内容でした。

また、北区の公的な催しで、こうした方を呼び寄せるようになったことは大変うれしくとす。ただ時間が短くて会場からの意見・質問等の時間がなかったことは残念でした。コンサートも最適でした。

（西が丘 葵和美さん）



第1回婦人問題リレー講座 中島通子講師



第3回婦人問題リレー講座 上：汐見稔幸講師、下：音楽のつどい



## ●'90北区婦人週間のつどい(3月29日)

講演：「心におしゃれを」

〈講師〉テレビ・プロデューサー

石井ふく子氏

音楽会：「歌とギター&フルート」

## ●婦人問題リレー講座

①「生きること、働くこと、楽しむこと」

(8月6日)

〈講師〉弁護士 中島通子氏

②「幸せさがし」

(9月6日)

〈講師〉童話作家 山崎陽子氏

③「家庭科だから、男女共修」(10月6日)

〈講師〉東京大学助教授 汐見稔幸氏



女性の地位向上は、女性自身の自立への自覚と努力が必要。

## 「婦人問題に関する意識及び実態調査」

まことまる

昭和50年、「国連婦人の10年」が宣言されて以来、女性の地位向上、真の男女平等社会の実現に向けてさまざまな施策や行動が、世界的な動きとなって展開されています。北区でも婦人問題解決に向けて、「北区第二次基本計画」を指針として対応してきましたが、さらに、積極的な推進を図るため、現在、「婦人行動計画」策定に向けて取り組んでいます。

こうした状況の中で、区民のみなさんの婦人問題に関する意識や実態を総合的にとらえ、「婦人行動計画」に反映させるとともに今後の婦人問題解決への参考とさせていただきます。本年7月、昭和59年に続いて2回目の「婦人問題に関する意識及び実態調査」を実施しました。

### ●1196人の方から回答をいただきました

この調査は、平成2年7月10日～25日の15日間、区内在住の20歳～80歳未満の男女1500人を無作為に抽出し行いました。回答は1196人、回答率79・7％です。

調査内容は、(1)家庭生活 (2)子どものしつけ・教育 (3)女性の就労 (4)男女平等 (5)健康管理と老後 (6)社会参加 (7)婦人問題対策と区政 についてです。

### ●「理想の子ども像」は、

男子「独立心や自立心のある人」  
女子「思いやりのある素直な人」

「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性別役割分業に対する考え方は、「そう思う」人は18・7％、「そう思わない」人は37・5％で否定派が肯定派を上回っています。

「夫婦別姓」については、夫と妻いづれの姓を名乗っても良いと法律が保証しているとはいえ、現実には夫の姓を名乗る場合が多い

のが現状ですが、この調査では別姓に賛意を示した人は8.7％と少なく、これに対し夫婦別姓は「家族としての一体感」(47・6％)や、両親の姓が違うことによる「子どもへのマイナス」(38・0％)を懸念する意見が圧倒的に多くなっています。

夫婦間の家事分担で夫が比較的良く手伝うものは、1位「掃除」(31・3％)、2位「日常の買い物」(23・1％)、3位「食事のあとかたづけ、食器洗い」(19・1％)の順ですが、全く夫が手伝わぬ家庭も4割近くある状況です。

「理想の子ども像」は、男子の場合「独立心や自立心のある人」、「思いやりのある素直な人」の両項目が多いのですが、女子の場合には「思いやりのある素直な人」(65・3％)



が突出。女らしさを示唆する面が浮き彫りされました。

### ●過半数が認める男女平等の場は「教育」だけ

「女性と職場のかかわり方」については、子育て中断型(職業はずっと持つが、子育て期は中断する)が49・6％と約半数を占め、次いで出産退職型が16・4％、職業を一生持ち続ける継続型8・8％と続き、出産育児期間はその間に専念するのが望ましいとの考えが多数を示めています。

男女の地位の平等について、①家庭生活 ②職場 ③教育の場 ④社会活動の場 ⑤法律や制度 ⑥社会全体についてどう認識して

女性の地位向上の要件 別表1

調査項目	割合
女性自身の自立への自覚や努力	53.5%
男性の意識を変える	24.6%
国や都区などの諸制度改革の努力	22.5%
男女平等に関する法律の制定	21.7%
男女平等の思想の普及	19.0%
家庭で男女差別をするしつけをなくす	11.0%
わからない	9.2%
教材や教科内容などの男女差別をなくす	4.8%
その他	2.1%
無回答	1.3%

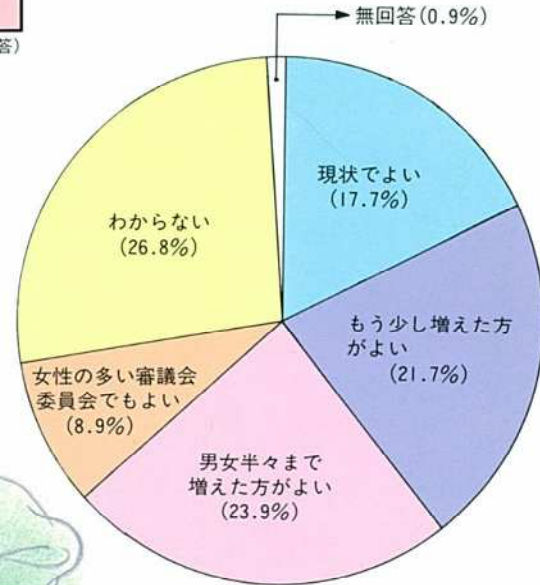
(複数回答)

●高齡化社会を向えて「介護制度の充実」を求める声が多い

女性の地位向上のための重視点は、別表1のとおりで、女性の地位向上に必要なことは「女性自身の自立への自覚や努力」が、53・5%と際立って多くなっています。

いるかをたずねたところ、平等になっている順は、③教育の場(59・0%) ④社会活動の場(32・2%) ⑤法律や制度(30・9%) ⑥家庭生活(20・7%) ②職場(19・8%)であり、また、社会全体では12・0%が「平等」と答えるに止まっています。平等の認識で過半数を超えたのは「教育の場」のみで、「家庭生活」「職場」では、「男性優位」が過半数を超えています。

議会や審議会への女性の進出評価 別表2



女性の社会進出を測る指標として、議会や審議会などに占める女性数があります。現在北区では、議員、委員総数のうち9・5%が

女性です。こうした現状に対する評価は、別表2のとおりで、6割の人が女性議員・委員の増加を望んでいることがわかります。

区の婦人施策の重視点としては、「老人、障害者の介護制度の充実」が31・5%、以下「母子家庭の生活安定」が13・6%、「婦人相談窓口の設置」12・8%、「女性の生涯学習ネットワークづくり」11・5%、「職業能力の向上と開発訓練・職業相談」10・5%と続いています。特に、「介護制度の充実」を求める人が目立ち、「主な介護者は女性である」という現状が反映されています。

なお、調査結果は報告書としてまとめてありますので、内容をお知りになりたい方は、婦人問題担当までお問い合わせください。この調査にご協力いただいた方々に、心からお礼申し上げます。





## 「北区婦人問題懇話会」

12月中旬、婦人問題に関する提言を提出  
～全委員が起草者に

北区婦人問題懇話会は、平成元年9月28日に第1回全体会を開催。以後、本年12月6日まで計8回の全体会および第一部会（教育・情報）、第二部会（健康・生活）、第三部会（就労・社会参加）において、それぞれ部会開催の回を重ねながら北区婦人行動計画に反映させるべく、提言をまとめる作業に取り組んできました。

すでに9月の時点で、全委員が提言の起草委員となって各自各々の分野を担当し、草案

をまとめて部会長へ提出。各部会長がそれを調整したのち、10月下旬までに藤原房子懇話会会長のもとへまとめられました。

こうして一本化した提言草案は、再度二部会長会で調整した上で、さらに12月6日の第8回全体会で全体の調整・検討を図り、同月中旬に北区長へ提出する予定になっています。北区民を代表する懇話会委員のみならず、よる北区ならではの一味違う提言が期待されます。



ご応募ありがとうございました  
アゼイリア

～誌名が決まりました

早春の明るさとともに飛鳥山に白色、紫、紅色、濃紅色など豊富な花色とあざやかな姿を見せ、思わず人目を引きつける花、それが北区の花「つつじ」(英名:アゼイリア)です。花言葉は愛の喜び、初恋。北区の女性問題啓発・情報誌「北区女性たより」を「アゼイリア」と名付け、花言葉のように区民の皆様にはほのぼのとした便りや喜びの便りを、また、あざやかな花色のように多彩な内容を満載し、お届けいたします。「北区女性たより」創刊号などで本誌名を公募しましたところ、29件の誌名が寄せられ、選考のうえ、荒井洋江さん(西宮高7丁目)の「アゼイリア」が誌名に決まりました。多くの区民の皆様から多数の誌名をお寄せいただきありがとうございます。末永く「アゼイリア」のご愛読をお願いします。

いらっしやいませんか

## 「'91北区婦人週間のつどい」

一昨年、昨年につづいて、第3回「'91北区婦人週間のつどい」を開催します。応募方法などについては「北区ニュース」でお知らせします。ぜひ、おてかけください。

「'91北区婦人週間のつどい」

● 婦人週間基調講演

講師：平岩 弓枝氏 (作家)

● 音楽会

出演：真理 ヨシ子氏

● 日時 平成3年3月28日(木)

午後1時30分～4時

● 会場 北とびあ さくらホール



## 聞き書き自分史

浮間は都会の田舎で、来る人がびっくりしたんですよ。  
本当に農家の暮らしでした。

黒田 恒子さん（浮間2丁目）

浮間はもと埼玉東北足立郡の一部でしたが、荒川放水路（現在の荒川）開きく完了により地形的に東京側に近くなったため、大正15年東京府に編入され、岩瀬町（現在の赤羽地区）大字浮間となった地域です。

荒川放水路が開きくされる以前の浮間は、荒川の洪水を克服しつつ歴史を刻んできたといえる地域で、家屋は水塚と呼ばれる土盛りをした台地に建てられていました。

「どの家も台所に舟が吊してありましたよ。年に2から3回は水がでて、子供の頃は

喜がってたら、いを持ち出したりして遊びました。舟も使いましたね」と、黒田さん。

上流に大雨が降るとすぐに増水し、土手の上から川の水で手が洗えたという荒川。当時の農家は米づくりが中心でしたが、洪水とともに秩父から運ばれる山泥が稲の上に積もり、「水があるうちに舟で行って、稲をエッサエツサって洗ってくる。それじゃないと、持ち上らないほど山泥がかぶつちやうんですよ」。

結婚は昭和10年、20歳のとき、約100mほど離れた同じ浮間から嫁

いきました。その頃には、放水路ができたため洪水は無くなりましたが、水路が無くなった関係から農業は稲作から畑作へと変わり、野菜と変などが中心作物となりました。

「10月頃だと4時ですわ起きるの。まだ暗い内に男より早く起きて、ごはんの仕度して

て、洗濯やなんかして

畑や田んぼには男と一緒に出掛ける。お昼は遠くても家へ帰りまして座敷の草履があり、汚れた足を洗わずにそれを履いて座敷にあって仕事をかたづけ、急いで畑へもどる。夜は11時頃まで衣服のつくろいや市場へ出荷する野菜の水洗い。寸暇を惜しんで働いた毎日でした。

「ラジオオラスとか花もいっぱい作ったんですよ。市場へ持って行って仕切ってもらわないとお金が入らないですよ。何のあがりもないんですよ」

「10月20日頃から麦まきを始めるんですけど、一日遅れると芽の出方がうんと違うんですよ。寒さが加わるでしょ、昔は文化の日頃には、霜がいつぱい降りて本当に寒かった。農業は気候に大きく影響され、四季に追われて気を抜くことができませんでした」。

都内にもこんな農村があったのかと驚かれたという浮間も、昭和30年頃に都営住宅団地が建設され、かや野だった場所に工場が進出してきました。昭和60年にはJR埼京線が開通し、北赤羽と浮間舟渡の二つの駅が誕生。新



昭和20代のこと

宿まで19分という便利な場所となりました。現在も浮間では、黒田家をはじめ3軒ほどが野菜を栽培していますが、「自家用ですよ。お父さんが作っているの。私は家の掃除と庭の草むしりだけ、なんにもしていません。でも、暮らしに張りがあるって、あの時分の方が良かったかなと思うこともある。ま、こうして丈夫でいられるだけありがたいと思っますよ」。芝生が見事な庭は、一本の雑草も無手入れが行き届いていました。





## 北区消費生活センター

（北とびあ11階にオープンしました）

北区消費生活センターは、区民のみならずのより豊かな消費生活の実現を援助する施設として、北とびあ開設と同時にオープンしました。

当センターでは、情報紙「明るいくらし」の発行や不用品交換情報の提供など、各種の情報を提供しているほか、消費生活講座・施設見学会を行っています。特に、第2・第4土曜日以外、毎日実施している消費生活相談室には、消費生活に関するさまざまな相談が寄せられ、専門の消費生活相談員がお答えしています。

一方、今年で開催18回を数える消費生活展、昭和58年から毎年、7月と2月に開催している生活用品活用市は、

もうみなさんにおなじみの行事です。

北とびあ11階。素晴らしい眺望も楽しめる消費生活センターには、消費生活相談室をはじめ、商品テスト室・学習室、図書・資料コーナー、情報コーナー、談話コーナーがあります。商品テスト室・学習室は、登録団体（26団体）が主に使用していますが、5〜6名で使用できる談話コーナー・情報コーナー、図書・資料コーナーはいつでも一般開放しています。空き具合を確かめてから、ご利用になってはいかがでしょうか。

● 王子1丁目11番 北とびあ11階  
☎ 5390-1239、1240  
FAX 5390-1143



北区消費生活センター



談話コーナー

第18回消費生活展

● 消費生活相談室

▼ 相談の電話 5390-1142  
▼ 相談受付 月～金 10時～16時  
土 9時30分～正午  
(第2・第4土曜日は休み)



編集後記

● 誌名を新たに発行しました第2号をご覧になっていかがでしょうか。ぜひ感想をお寄せください。アゼイリアは皆さまの声を大切にして、皆さまと共に歩んでいきたいと思っています。

● 北区の女性の地位向上に焦点をあてた取り組みが始まっています。12月には、婦人問題懇話会から北区婦人行動計画をつくるための提言をいただく予定です。来年度からの婦人行政の実施に向けて計画をつくります。高齢化社会と女性の問題、女性の社会参加とその条件整備、女性相談、情報、ネットワークの整備など、すべて北区にお住いのあなた自身が女性として、人間として、生きいきとくらししていくための行動計画です。

● 「婦人週間のつどい」婦人問題リレー講座」参加いただきましたが、もっと充実してまいります。皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

アゼイリア 2号

北区女性だより

● 発行／東京都北区

● 企画・編集／総務部総務課

☎ 908-11111 (内) 22220

● 制作協力／鯨吼社